

姥ヶ山消防団の活動

山潟分団第二班班長 阿部敏明

新潟市消防団は、撞木の消防局内に本部を置き、消防団長以下六千名ほどの組織です。各区に方面隊を置き、その下に地域の分団、末端の班という構成になっています。

姥ヶ山消防団は、正式には新潟市消防団中央方面隊山潟分団第二班というのが我々の名称です。

現在、私と山田一洋副班長の下、総員十三名、二十代から五十代で活動しております。

消防団員は、本業を持ちながら「自分達のまちは自分達で守る」という精神に基づき、地域の安心安全を守るために活動している組織です。地域の事情に詳しく、動員力に優れた消防団は、防災活動においてとても重要な役割を果たしています。

消防団活動は、火災時に市消防職員と連携して消火活動に当たり、普段は、放水演習や小型ポンプ車で防火広報、各自治会との防災訓練、消防局で研修等を行っています。我々はまだまだ多くの人の力を必要としており、自分の特技を地域に役立てようと思っている方、ボランティア活動をしたいけれど何をやってよいのか分からない方は、我々と一緒に消防団活動から始めてはいかがでしょうか？懇親会もあり、楽しく活動しています。年齢十八歳以上で男女問わず、身体強健な方であれば入団できます。興味のある方は、詳しくは山潟分団近藤英一分団長か消防局若しくは中央消防署の消防団係へお問い合わせ願います。

中央消防署消防団係
TEL 025-223-7334



防災訓練の指導員として



配備されている小型ポンプ積載車

窓



今年、東芝の会計偽装に始まり、三井不動産・旭化成建材の杭の改ざんと、偽装の一年であった。食品の賞味期限や原材料の偽装は以前からあったが、こんな一流企業がやるとは隣国あたりの話かと思った。営利至上主義がもたらした弊害なのか、信用を無くし本当に杭だけに悔いを残す結果となった。

地域ではBRTがスタートからつまづいている。市長は古町の活性化と唱えながら、郊外から直通で古町へは行けなくなった。言っている事と、逆行している。

多額の税金を使いながら・・・市民からは廃止署名活動も起き、どういった着地点を見出すのであろう？

我が国のトップは何時から国王になったのか？ 自らの政策が成果を見いだせない焦りなのか、あらゆる組織等に圧力をかけている。国家国民を自分の思い通りに統治したいのであろうか？

国民に対しては東京五輪やパリテロ事件の追い風を受け、緊急事態条項から改憲しようとする動きがある。

戦前の治安維持法を復活させたいのか？ 国民の権利が侵害されないことを願う。

沖縄では基地移転問題で政府と知事（県民）がいがみ合っている。政府は県市町村といった自治体を頭越して、県民に対し現ナマをばら撒き、人心を買うつもりなのか？ 民主主義の基本である地方自治の危機は即ち民主主義の危機でもある！

報道への介入も目に余る、言論・表現の自由を守るため、報道に携わるマスコミやジャーナリスト達は無偏不党の立場で真実の報道を貫いてほしい！

もしNHKが政府の報道機関となった折は、我々庶民は受信料の不払いも検討の一つであろう。

(O.S.M)

今年の秋は、紅葉の良い頃に良い天気が少なくて、趣味写真風の私には少々鬱憤・・・年を摂ると何に付けても、怒る・・・年を摂れば穏やかになるものと決めて居たのに・・・成れなかった。

でも、ちよつと見回せば、我が故郷の廻りには、春夏秋冬に変化に富んだ自然が有るではないか。桜咲き誇る鳥屋野潟の春・植えたばかりの早苗に響く郭公の鳴き声・一面に緑の絨毯を敷き詰めた様な田圃に風が渡り、五頭の山並み湧き上がる入道雲の夏・稲刈りが進みパツチワークの様な秋の田園風景が広がり、有る晴れた朝に突然飯豊山の頂きが真っ白になる頃冬の使者白鳥が木々の枝先を掠めて行く秋・やがて採り残された柿の実に積もる雪降る冬が来て、鳥屋野潟の湖面には沢山の白鳥が降り立つようになり、周辺の田圃には群れなして落ち穂を食べている風景が見られる。

昔(私にはつい最近)は何でも無かった風景が、とても大事に思えて来る年齢になり、その時に地域に役立つ事の出来る自治会の役割を担える事は嬉しい事と思えます。

畑の雪を集めてはカマクラや雪の滑り台を子ども達に造ったあの体力は今は無いらぬ冬ならではの楽しい遊びこそ出来なくなりましたが、まだまだ楽しめる事が、姥ヶ山地区・山潟地区には有ると思います。これからの若い人達に、見つけて、教えて欲しい。

一月十日には、春を呼び込むさいの神が有ります。是非楽しんで下さい。
(A.H)

編集後記

皆さんにとって今年はどうな年だったでしょうか。

テロやTPP大筋合意など世界的なニュースの他に姥ヶ山でも大きなニュースがあります。

農業者にとって長年続いていた「姥ヶ山農家組合」と「姥ヶ山分區」が統合して「姥ヶ山農地組合」が誕生したことです。農地が減り、農業に携わる人が少なくなったことで組織の運営にも少なからず影響が出てきたために組織を改編し、近隣地域では初の試みとして来年度からスタートします。

「無常」という言葉があります。世の中はいつも同じではない、常に変化しているという意味です。その時代のその状況を見極めて対応することは大切なことだと思います。近隣の集落もこの姥ヶ山の取り組みに関心を示しており、今後の活動が注目されています。

今年も残すところあとわずかになりました。年末年始には諏訪神社への二年参り、来年一月十日には「さいの神」にぜひお越しください。

投稿募集

最近気になること、ちょっとした話、サラリーマン川柳など、まじめなお話でも、笑えるお話しでも、会員皆様の原稿を募集しています。発行は、毎年2回です。詳しくは、各ブロックの総務部までお問い合わせ下さい。

